

京都大学	博 士 (医 学)	氏 名	山本 洋介
論文題目	Depressive symptoms predict the future risk of severe pruritus in haemodialysis patients: Japan Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study. (血液透析患者におけるうつ傾向は将来におけるそう痒の発生を予測する)		
(論文内容の要旨)			
そう痒は、血液透析患者にしばしば認められる症状であり、近年うつ傾向などの低い精神的健康度との関連が横断的に明らかにされている。しかしながら、血液透析患者においてうつ傾向を有することが、どの程度将来のそう痒発生と関連するかについての縦断的な研究はなされていない。 そこで、本研究では、血液透析患者において、ベースラインでのうつ傾向と、経時的なそう痒発生との関連を検討することを目的とした。 具体的には、ベースラインにおいてそう痒がないか、もしくは軽微である血液透析患者 1799 名を対象に 0.5-2.5 年の追跡を行い、ベースライン時のうつ傾向の程度と追跡後の調査における重度のそう痒発生の有無との関連を検討した。そう痒は自己記入式の 5 段階の Likert 尺度を用いて、うつ傾向は自己記入式の尺度である 5 項目版 Mental Health Inventory (MHI-5) を用いて、それぞれ測定した。なお、これらの調査は血液透析患者の代表サンプルを用いたコホート研究である、Japan Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study (J-DOPPS I 及び II, 1996-2004) のデータに基づき実施された。 本研究の対象者数は 1799 名であった。その平均年齢は 56.9 歳であり、男性が 59.5%を占め、23.6%がうつ傾向を有していた。追跡後の調査においてそう痒の発生を認めた割合は、それぞれベースライン時にうつ傾向を有する者の 17.9%、うつ傾向を有さない者の 11.6%であった。 引き続き、性・年齢・透析導入機関・喫煙の有無・抗ヒスタミン薬使用の有無・コホートの時期、並びに併存症 5 疾患について調整した多変量ロジスティック回帰分析を行ったところ、うつ傾向を有する血液透析患者は、追跡後の調査において有意にそう痒の発生を認めていることが明らかとなった(調整オッズ比 1.57、95%信頼区間 1.22-2.01、$P < 0.001$)。 さらには、MHI-5 のスコアの 4 分位点を用いて、対象者数が 4 群でほぼ均等となるように分けた上で、スコアが 85 点以上を示したうつ傾向が最も軽微と判断された群を基準にダミー変数を作成、各群とそう痒発生との関連を前掲の調整要因を考慮した多変量解析にて検討した。その結果、MHI-5 のスコアが 85 点以上であったうつ傾向が軽微な群と比較して、軽症群 (75 点以上 84 点以下) のそう痒発生に関する調整オッズ比が 1.08、中等症群 (57 点以上 74 点以下) の調整オッズ比が 1.51、重症群 (56 点以下) の調整オッズ比が 1.96 となり、MHI-5 のスコアとそう痒発生との間に用量反応性の関連が認められた (trend $P < 0.0001$)。 以上より、本研究の結果は、血液透析患者において、MHI-5 によって測定されたうつ傾向は、将来におけるそう痒発生を予測することを示唆するものと思われた。			

(論文審査の結果の要旨) そう痒は、血液透析患者にしばしば認められる症状であるが、うつ傾向とそう痒発生との関連に関する縦断的な研究はなされていない。本研究では、血液透析患者において、ベースラインでのうつ傾向と、経時的なそう痒発生との関連を検討することを目的とした。 具体的には、ベースラインにおいてそう痒がないか、軽微である血液透析患者 1799 名を対象に 0.5-2.5 年の追跡を行い、ベースライン時のうつ傾向と追跡後の調査における重度のそう痒発生との関連を検討した。そう痒は 5 段階の順序尺度を用いて、うつ傾向は 5 項目版 Mental Health Inventory (MHI-5) を用いて、それぞれ測定した。なお、これらの調査は血液透析患者のコホート研究である、Japan Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study (J-DOPPS I 及び II, 1996-2004) のデータに基づき実施された。 その結果、そう痒の発生割合は、ベースライン時にうつ傾向を有する者の 17.9%、うつ傾向を有さない者の 11.6%であった。また、多変量ロジスティック回帰分析を用いて検討したところ、うつ傾向を有する血液透析患者は、追跡後の調査において有意なそう痒の発生を認めた (調整オッズ比 1.57、95%信頼区間 1.22-2.01、$P < 0.001$)。さらには、MHI-5 のスコアの 4 分位点を用いて検討を加えたところ、MHI-5 のスコアとそう痒発生との間における用量反応性の関連が示された (trend $P < 0.0001$)。以上の研究は血液透析患者におけるうつとそう痒発生との関連の解明に貢献し、血液透析患者のそう痒に関する診療パターンの改善に寄与するところが多い。 したがって、本論文は博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認める。 なお、本学位授与申請者は、平成 23 年 3 月 23 日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。			
要旨公開可能日： 年 月 日 以降			